

太田市 子ども読書活動推進計画 (第2次)



©太田市

目次

第1章 計画の策定について

I 計画策定の目的	2
II 対象	2
III 計画の期間	2
IV 計画の推進方針	2

第2章 第1次計画の取組・成果と課題

I 具体的な取組	3
II 第1次計画の事業の実施状況	5
III 課題	7

第3章 計画の推進について

I 家庭における子どもの読書活動の推進	
1 夏休み読書キャンペーン事業	8
2 本の貸し出し事業	9
3 ブックスタート事業	9
II 地域における子どもの読書活動の推進	
1 公立図書館	10
2 美術館・図書館	11
3 児童館	12
4 こども館	13
III 学校等における子どもの読書活動の推進	
1 幼稚園・保育園等	14
2 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校	
(1) 学校図書館の充実	15
(2) 朝読書・読み聞かせの実施	18
(3) 児童生徒主体の活動	20
IV 関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進	
1 図書館と学校等との連携	22
2 図書館と他団体との連携	22

第 1 章 計画の策定について

I 計画策定の目的

平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」と意義づけています。子どもを取り巻く環境の変化が進むなかで、子どもが読書に親しむためには、身近な家庭、地域、学校等はもとより、社会全体で子どもの読書活動の重要性を認識し、積極的に環境を整えながら支援していくことが重要です。

国においては、令和5年3月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第五次）」が策定されました。また、群馬県においても令和2年3月に「群馬県子ども読書活動推進計画（第四次）」を策定し、子どもの読書活動の推進をしています。

本市においては、令和元年に「太田市子ども読書活動推進計画」（以下、第1次計画）を策定し、子ども読書活動の推進を図ることを目的に取り組んできました。

「太田市子ども読書活動推進計画（第2次）」（以下、計画）では、第1次計画の成果や課題を踏まえ、より一層の取組の充実を図りながら、読書を通じて子どもの豊かな心を育み、健やかな成長を支える環境づくりを推進してまいります。

II 対象

おおむね18歳以下の子どもとします。なお、子どもの読書推進に関わる保護者、地域及び教育関係者等も対象とします。

III 計画の期間

計画の期間は、2024年4月から2029年3月までの5年間とします。

IV 計画の推進方針

以下の取組をとおして計画の推進を図ります。

- 1 家庭における子どもの読書活動の推進
- 2 地域における子どもの読書活動の推進
- 3 学校等における子どもの読書活動の推進
- 4 関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

第2章 第1次計画の取組・成果と課題

第1次計画では、学校や児童館、図書館等の公共施設での事業の実施を中心に子どもの読書活動の推進に取り組んでまいりました。令和2年度からは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休校や施設の休館、事業の中止など、第1次計画の推進が困難な時期もありましたが、実施方法の見直しや工夫を検討しながら事業を実施しました。

I 具体的な取組

1 家庭における子どもの読書活動の推進

家庭において子どもが読書習慣を身に付けるには、子どもの周りにいる大人がその重要性を理解し関わっていくことが大切であることから、こども館では夏休み読書キャンペーン事業、本の貸し出し事業のほか、子どもの読書活動に保護者が積極的に関わり、読書が生活の一部として継続的に行われるよう、様々な事業を開催しました。

2 地域における子どもの読書活動の推進

公立図書館では、図書の整備やレファレンスサービスの強化などによる利用拡大に努めたほか、本に親しむ子どもを増やす取組として、各館で子ども向けイベントや特集の実施、こどもビブリオバトルの開催、ブックスタート事業などを行いました。

美術館・図書館では、館の特色である絵本・児童書を中心に、「本でつながるイベント」として様々なワークショップやイベントを年に10回程度開催し、親子で楽しみながら図書館を身近に感じてもらえるように努めました。

児童館では、読み聞かせやお話し会など乳幼児期から本と出会うきっかけづくりに努め、市内14児童館で計2,370回の読み聞かせを実施、10,333人が参加しました(令和4年度末までの実績)。また、子育ての活動支援として母親クラブやボランティア、子育てサロンと連携し読み聞かせの機会や回数の増加を図り、本に触れる多くの機会を提供しました。

3 学校等における子どもの読書活動の推進

公立幼稚園では、職員だけでなく保護者ボランティアによる読み聞かせの実施、図書館の利用や月刊誌の購入により本に触れる機会をもつなど、園と家庭とで連携を図りながら子どもの読書活動に取り組みました。

市内の学校では、ほぼ全ての学校で朝読書に取り組み、小学校では学年に応じて週1～2回、中学校や市立太田高校では毎日継続しました。また、多くの小学校が低学年を中心に読み聞かせを実施し、職員だけでなく読み聞かせボランティアや保護者の協力を得て行いました。

授業でも図書館を積極的に活用しており、学習内容に関連した図書や発達段階に応じた図書を配置するために、担当学年の教諭が本を選定しました。子どもの希望を取り入れた選定をするために、図書委員会による図書の選定やリクエストBOXの活用も行いました。

児童生徒主体の活動として、図書委員会がポスターやポップを作成しておすすめ本の紹介を行ったり、多読賞の表彰やしおりのプレゼントをしたりし、読書への興味をもたせる工夫もしました。読書週間に併せて読書集会を開き、低学年への読み聞かせやイベントなども行いました。

子どもが本を手に取りやすい環境づくりも考え、廊下や玄関へ書架を配置したり、季節や行事と関連付けたコーナー作りをしたりしています。また、集中して読むために椅子を設置したり、リラックスして読めるように床に座れるようにしたりし、気持ちに合わせて本を読める空間づくりも行いました。

市立太田高校では、図書委員会を中心とした本の紹介や選書など生徒の主体的な活動が実施され、ビブリオバトルが盛んに行われています。また、県立図書館、市立図書館等の団体貸出や相互貸借により、不足資料や入手困難な資料を利用できるようにしたり、インターネットからの蔵書検索サービスを利用し、パソコンやスマホなどから図書館の蔵書を検索できるようにしたり、学校図書館の利用拡充を図りました。

4 関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

公立図書館では、小学1年生に向けた「図書館へ行こう」リーフレットの配布や、小中学生、高校生の施設見学や職場体験の受け入れを行い、子どもが本に触れ図書館の社会的役割について学ぶ機会を提供しました。また、図書館から各地区の行政センターに夏の課題図書の配布を行い、行政センターでも貸し出しを行いました。

公立図書館では、読み聞かせボランティア団体によるおはなし会やクリスマス会を開催し、乳幼児期から学童期までの親子に本に親しむ機会や楽しさを提供しました。

Ⅱ 第Ⅰ次計画の事業の実施状況

Ⅰ 家庭における子どもの読書活動の推進

こども館

・夏休み読書キャンペーン事業

	参加者(人)	一人当たりの平均(冊)	総読書数(冊)
2017年度	370	2	727
2022年度	313	3	1,004

・本の貸し出し事業

	蔵書数(冊)	貸出数(冊)		利用者数(人)	
		本	紙芝居	本	紙芝居
2017年度	9,800	17,340	269	4,195	101
2022年度	11,000	12,222	93	2,779	33

2 地域における子どもの読書活動の推進

公立図書館(4館合計)

・本と出会い、本に親しむ子どもを増やす取組

	図書資料保有状況 (冊)	図書資料貸出状況 (冊)	児童利用人数(人)
2017年度	703,107	778,119	47,467
2022年度	668,265	707,380	40,163

※児童とは0～12才を対象

美術館・図書館

・本でつながるイベント、本に親しむ子どもを増やす取組

	図書貸出状況		イベント		おはなし会	
	図書資料 貸出状況 (冊)	児童利用 人数(人)	開催回数 (回)	参加人数 (人)	開催回数 (回)	参加人数 (人)
2017年度	65,445	5,600	7	450	32	686
2022年度	59,776	4,775	10	1,786	45	666

※児童とは0～12才を対象

児童館

・読み聞かせ事業

	開催回数(回)	参加人数(人)	実施館数
2017年度	236	3,125	15児童館のうち12か所
2022年度	368	2,164	15児童館のうち14か所

こども館

・読み聞かせ事業

	開催回数(回)		参加人数(人)	
	読み聞かせ	紙芝居	読み聞かせ	紙芝居
2017年度	73	26	498	352
2022年度	73	16	453	140

3 学校等における子どもの読書活動の推進

学校図書館

・図書室の年間利用人数

	授業時間 1校あたりの平均(人)			休み時間・放課後 1校あたりの平均(人)		
	小学校	中学校	義務教育 学校	小学校	中学校	義務教育 学校
2017年度	6,446	1,115	—	17,429	3,673	—
2022年度	746	623	2,973	8,735	2,906	16,292

4 関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

公立図書館(4館合計)

・団体貸出

	団体登録数	団体利用数(回)	団体貸出冊数(冊)
2017年度	193	2,282	17,100
2022年度	237	1,928	15,461

Ⅲ 課題

読み聞かせや様々な取組をとおして、子どもの読書活動の推進に努めてまいりましたが、生活環境の変化の中で、子どもたちの児童館等の利用が減っている現状があります。また、学校の休み時間や放課後についても、学年が上がるにつれて様々な活動が増え、図書館を利用する時間、読書時間の確保がしにくい状況があります。加えて、インターネットやスマートフォンの急速な普及により、子どもの読書活動に大きな影響を与えていることが考えられます。

子どもが本に親しみ、自主的な読書活動をしていくために、読み聞かせや読書の重要性を伝える啓発活動や、家庭・地域・学校等が連携、協力して取り組んでいけるような環境の整備とともに、子どもの生活環境の変化に対応しながら、読書活動の推進を図っていく必要があります。

第3章 計画の推進について

I 家庭における子どもの読書活動の推進

家庭における読み聞かせなどの読書活動は、家族の触れ合いや親子のコミュニケーションを深めることにつながります。子どもの読書習慣は日常生活をとおして育まれるものであり、子どもが本に親しみ、読書習慣を身に付けるためには、保護者が読書の重要性について理解し、積極的に関わっていくことが求められます。

家庭における読書活動を推進するため、家庭への情報提供や啓発活動、親子で楽しく読書に関われるような取組を進めていきます。

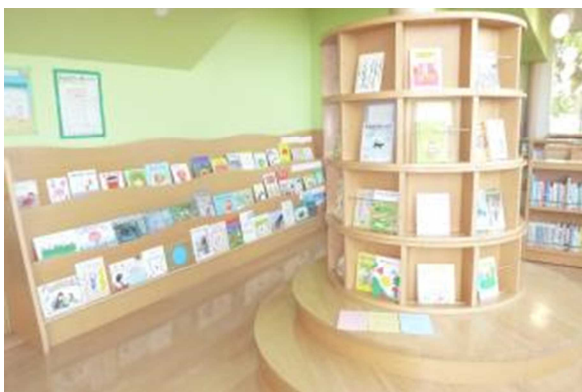
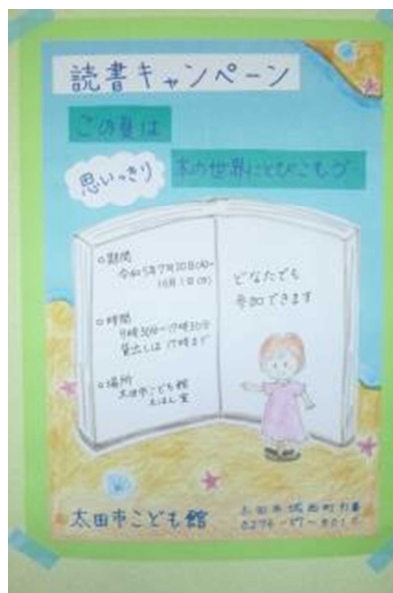
1 夏休み読書キャンペーン事業【こども館】

(1) 内容

子どもが自分で本を読んだり、大人に本を読んでもらったりすることで本の世界が広がることを目的として、夏休み期間中に実施します。期間中、こども館えほん室で自分に合った「本のしおり」をもらうことができます。

(2) 課題

子どもが本を読む機会が少なくなっている原因として、子どものうちから読書習慣を身に付けることの重要性を保護者が理解していないことが挙げられます。子どもの読書活動に保護者が積極的に関わっていただけるような事業展開が課題となっています。



(3) 今後の方向性

親子で参加できる本に関する事業の開催や、親子で気軽に読書ができる雰囲気作りに努めることで、子どものうちから読書習慣を身につけることの重要性についての理解や関心を高めます。また読書キャンペーンでは、来館する子どもたちが積極的に参加したいと思えるような企画の計画に努めます。

2 本の貸し出し事業【こども館】

(1) 内容

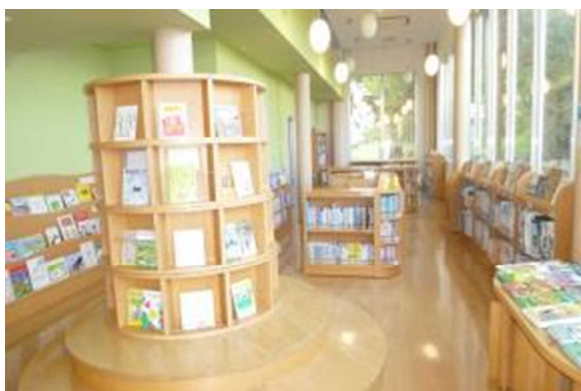
こども館にある「菅田文庫」には児童向け図書が11,000冊あり、子どもから大人までを対象に図書の貸し出し事業を実施しています。

(2) 課題

こども館に遊びに来て、えほん室を利用する子どもが減少していることや、本への関心が低くなっているのが現状です。本に関心をもたない子どもたちに、読んでみたいと手に取ってもらえるような本を選定し、本の配置や掲示方法を変えていくことが課題となっています。

(3) 今後の方向性

子どもの読書活動の推進に繋がるよう、子どもの様々な興味や関心に応えられる図書の購入に努めます。また、イベントに参加してくれた親子が、えほん室にも足を運んでくれるような工夫に努めます。



3 ブックスタート事業【公立図書館】

(1) 内容

保健センターで行われる4か月健診の際に絵本を配布しています。

(2) 今後の方向性

本の配布に加え、親子で本に親しむきっかけとなるよう、赤ちゃんにおすすめの絵本や市立図書館で行われる読み聞かせ事業（おはなし会）の紹介、図書館利用案内など、情報提供も行っていきます。

Ⅱ 地域における子どもの読書活動の推進

子どもが本と出会い、本に親しむ子どもを増やすためには、いつも身近なところに本があるような環境の整備が求められます。図書館や児童館は子どもの身近な読書活動の場として、子どもや保護者に対しその活用について周知を図り、利用促進に努めていきます。

Ⅰ 公立図書館

(1) 内容

乳幼児から大人まで生涯を通じて読書活動を楽しめるよう、利用者のニーズにあわせた資料収集の充実に努めます。

季節や子どもの興味・関心にあわせたイベントの実施により、図書館の利用促進を図ります。読み聞かせボランティアによるおはなし会を継続的に実施し、子どもが本と出会い親しむ機会を提供していきます。

読書手帳の配布や図書館ホームページ機能の紹介などをおして読書活動を促進します。

(2) 課題

図書館を日常的に利用していない家庭や子どもに対して、図書館を身近に感じてもらい読書の楽しさや大切さを理解してもらえるような事業展開が求められています。

また、デジタル社会に対応した読書環境の整備が求められます。

(3) 今後の方向性

多様化する利用者ニーズに応えるため、資料の整備やレファレンスサービスの強化に努めるとともに、ホームページ等を活用した情報発信に努めます。

自主的な学習の支援やイベントの実施をおして、図書館利用の促進を図ります。

漫画の積極的な収集により、図書館利用の促進と読書活動への興味関心を高めま



2 美術館・図書館

(1) 内容

美術館・図書館では、多様性あふれる世界の文化や感性に出会えるワークショップを開催するなど、子どもが図書館を身近に感じてもらえる活動を行います。

子どもが本に出会える場としておはなし会を継続的に開催し、子どもの読書環境の向上を図っています。

(2) 課題

事業コンセプトの明確化と、コンセプトを遵守するための体制を構築します。

子ども向けのワークショップやイベントを充実させ、中心市街地を市民が集まる場所へと再生していくことが望まれます。

(3) 今後の方向性

親子での本施設の利用を促進するために、親子で参加できるイベントや主に子どもを対象とした創造体験できる参加型ワークショップを展開します。

蔵書やアート作品、空間を相互に活用することで、子どもに新たな本との出会いを提供するとともに、子どもの興味や知識の深化を促します。



3 児童館

(1) 内容

子育て支援の活動として、親子で参加できる読み聞かせやお話し会を開催し、保護者に対し読み聞かせの意義や読書習慣を身に付けることの大切さを継続的に働きかけ、親子で本に親しむ機会を提供します。読書活動の大切さや楽しさを伝えることは重要な事業であり、積極的に親子読書への働きかけを行っていきます。

(2) 課題

共働き世帯の増加で、未就学児は園への入所、児童は学童などへの入所で児童館を訪れる子どもの数も減少しています。また、読書離れの傾向として、家庭や地域の子育て機能の低下、加えて携帯電話などの影響も大きく、遊びの場として利用するだけで本に興味をもっていない子どもや保護者が多いことが現状です。

(3) 今後の方向性

幼少期のうちから親子で本に触れ合う機会のある場を読み聞かせやお話し会の活動の中で増やし提供していきます。絵本をはじめ、年齢層ごとに計画的に本を購入し、貸し出し、読書活動を充実させ支援します。地域で子育てに対する意識を高めるよう取り組み、幼少期に絵本に出会うことの大切さ、親子で本に親しめる環境づくりに努めていきます。



4 こども館

(1) 内容

こども館では3歳以上の子どもを対象に「おはなしのへや（読み聞かせ）」を定期的
に実施しています（3歳～小学校1年生までと、小学校2年生以上に分けています）。ま
た乳幼児とその保護者を対象に「わくわく紙芝居」も開催しています。

(2) 課題

こども館を訪れる子どもの数が減少していることや、遊びに来ても読書以外の遊びを
するだけで本に興味をもたない子どもや保護者が多くなってきているのが現状です。

(3) 今後の方向性

少子化、核家族化、共働き家庭の一般化など、子どもを取り巻く環境が大きく変化す
る中で、本をとおして親子の交流や子育て情報の提供などが行えるようボランティアと
連携して事業を展開していきます。紙芝居を好きな子どもも多く、幼児だけでなく小学生
も楽しめる紙芝居がたくさんあるので有効活用に努めます。



Ⅲ 学校等における子どもの読書活動の推進

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するために、学校等においては環境を整備し、適切な支援を行う必要があります。また、学校図書館は子どもが利用しやすい、安心できるなど、子どもの居場所としての機能も期待されます。

Ⅰ 幼稚園・保育園等【こども課・公立幼稚園】

(1) 内容

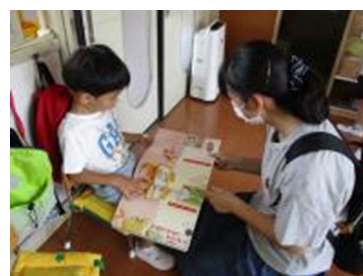
幼児が自分なりの感じ方で読み聞かせを楽しめる機会を大切に、園の絵本コーナーの充実を図ります。年齢や発達段階を考慮しながら、読み聞かせの意義の啓発や月刊誌の購入を行い、園と家庭で共有して楽しめるように促します。また、園の絵本の貸し出しを行い、より多くの図書館利用へつながる働きかけをしていきます。

(2) 課題

年齢や発達段階・興味関心に合わせた絵本の選定や、読み聞かせの大切さや意義を知らせる啓発方法の工夫が必要です。また、仕事をする保護者が多い中でのボランティアの確保が課題として挙げられます。

(3) 今後の方向性

園の絵本コーナーを充実させ、職員や保護者ボランティアによる読み聞かせの時間を設けたり、絵本の貸し出し（週末持ち帰り、週明けに返却）を行ったりして、本に親しむ機会の提供に努めていきます。



2 小学校・中学校・義務教育学校・高等学校

(1) 学校図書館の充実

小学校・中学校・義務教育学校【学校教育課】

①内容

小・中・義務教育学校の学校図書館では、それぞれの発達段階に合わせ、子どもの興味・関心に応じて、進んで読書や学習を行える場でありたいと考えています。そのため、子どもが落ち着いて読書を行うことができる安らぎのある環境や、知的好奇心が満たされる学びの場としての環境を整えていきます。

子どもの読書・学習活動を支えるために、子どもの声を取り入れながら適切な本や資料を整備したり、県立図書館や市立図書館等地域の図書館の団体貸出を利用したりすることを計画的に行い、多くの情報が得られる場にしていきます。また、図書室から廃棄対象になった本に関して、状態のよい本は学級文庫や学年文庫などで再利用し、子どもの身近に本がある環境にしています。見やすく使いやすいような本や書架の配置、本の魅力を伝える掲示物等で、子どもの読書への興味や関心を高められるような工夫も継続していきます。

たくさん読書した子どもを多読賞で称えたり、子ども同士で本を紹介し合ったりするなど、本を介して互いを認め合える場にする 것도大切にしています。

②課題

学年が上がるにつれて休み時間や放課後の子どもたちの役割が増え、学校図書館を利用する時間の確保がしにくいことが挙げられます。また、貸し出されている本に着目すると、短編や絵の多いものが人気であり、長編に興味をもたせることは難しいことがうかがえます。子どもの興味がある本と、大人が読ませたい発達段階に合った本との隔たりもあり、子どもに興味をもたせる方法を考えることも課題です。

調べ学習などの情報収集の場面では、本とICT活用のそれぞれのよさを生かすことが難しいことも挙げられます。

③今後の方向性

子どもたちの発達段階や各教科の学習内容を考慮し、様々なジャンルのバランスのとれた図書を選定を行うとともに、子どもたちに興味をもたせるアプローチを引き続き工夫していきます。また、公立図書館との連携を図り、団体貸出を活用して子どもたちの興味・関心に応えられる魅力的な本や資料の整備・充実に努めます。

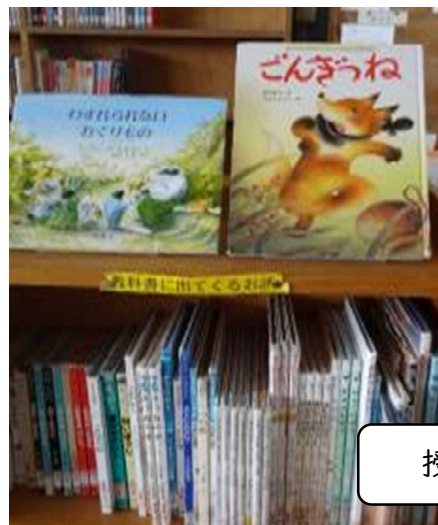
授業や行事との連携を深め、子どもが学校図書館を活用しやすい環境を整えます。



気持ちに合わせて選べる座席



行事と連携した特集コーナー



授業と連携した配架

高等学校【市立太田高校】

①内容

「学習センター」「情報センター」としての機能を強化していきます。
「読書センター」としての機能は、引き続き資料を充実させていきます。

②課題

紙の資料だけでは、現代の生徒の学びをカバーしきれないのが現状です。電子書籍、オンライン百科事典、新聞のオンラインデータベースが学校向けに存在しているが、それを学校単位で契約するのは、費用面で課題があります。

③今後の方向性

生徒が持っている、学習用端末をさらに活用できるよう、図書館も教室と同じICT環境を整備する必要があります。(Wi-Fiの整備など)

太田市の生徒が利用できる電子図書館の整備の検討が望まれます。



(2) 朝読書・読み聞かせの実施

小学校・中学校・義務教育学校【学校教育課】

①内容

朝読書は、ほぼ全ての学校で行っており、静けさの中で本と向き合う時間を確保しています。学年が上がるごとに読書時間が取りにくくなったり読書離れが心配されたりする中、読書に対する興味をもたせ、読書の習慣化が図れるため、これからも継続していきたいと考えます。

読み聞かせは、ほとんどの小学校で低学年に対して行っており、児童は読み聞かせを通じて言葉を獲得したり本への関心を高めたりすることができています。多くの学校が、地域の読み聞かせボランティアや保護者の協力により継続的な実施をしています。また、読書週間や委員会活動の一環として高学年が低学年に行うなど、異年齢の交流活動として行っている学校もあります。様々な本に出会える貴重な機会となっています。

②課題

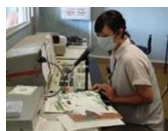
多くの学校が、子どもの読書離れや読書量の減少、読むジャンルの偏りを課題として挙げています。学年が上がるごとに図書館利用が減少し、図書館を利用する子どもが限定されていくことや、本を読む子どもと読まない子どもの二極化の解消も課題です。

朝読書の習慣や読み聞かせで出会った本が読書推進のきっかけになり、よい読書習慣につながるような工夫を行うことも重要だと考えます。

③今後の方向性

朝読書用の本として図書館の本を借りたくなるよう、本の紹介や書架の配置場所の工夫に努めます。

学級通信や図書便りをとおして、新刊やおすすめ本の紹介等の読書に関する情報を伝えるなど、家庭への啓発活動を継続します。



図書委員・職員による
読み聞かせ



高等学校【市立太田高校】

①内容

毎日の朝読書を継続し、読書に対する働きかけを継続して行っています。

②課題

生徒は、行事や部活動に忙しく、図書館利用の時間を作りにくい現状があります。また、読書に関心のない生徒にどのように関心をもたせていくか検討し、工夫していく必要があります。

③今後の方向性

中高校生になると電子書籍の浸透、オーディオブックの登場により、読書のかたちが変わりつつあるため、図書館向けのサービス等 ICT 活用の検討が求められます。



(3) 児童生徒主体の活動

小学校・中学校・義務教育学校【学校教育課】

①内容

読書への関心を高めるため、図書委員会では、児童生徒が主体となって様々な活動をしています。「おすすめ本の紹介」では、ポップやポスターを作成して教室や廊下に掲示したり、図書館だよりや放送で紹介したりしています。また、たくさん読書した人を「多読賞」として紹介し、手作りのしおりをプレゼントする活動も行っています。「本を読んでもらいたい」「好きになってもらいたい」という思いをもって活動しているために、本のよさを伝えられているという効果もみられます。

7割程度の学校が秋の読書週間を設けており、図書委員による集会での本の紹介や他学年への読み聞かせ、クイズ・ビンゴ大会、スタンプラリーなどのイベントを行い、本への興味をもたせています。

また、授業でのビブリオバトルをきっかけに図書館利用が増加した学校もあり、児童生徒主体の学習活動が読書推進に直結しています。

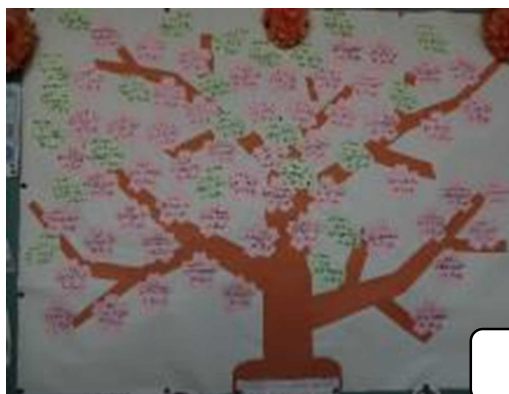
②課題

図書委員会を中心とした活動は、読書推進のきっかけづくりとしての効果を挙げていますが、日々の読書活動への結び付きとしてはまだ弱いといえます。また、読書や図書館が好きな児童生徒の読書量は増えても全体的な広がりにならないこと、読むジャンルに偏りがあることも課題です。

③今後の方向性

各校における児童生徒主体の活動について情報交換を継続し、日常的な読書活動の促進や幅広い読書につながる活動を考えて実践していきます。

児童生徒が読書への興味・関心を高め、読書量の増加と質の向上を図れるような効果的で魅力ある取組を工夫し、児童生徒主体の活動をさらに充実させていきます。



多読賞の木としおり



図書委員・職員のおすすめ本の紹介



図書委員会の蔵書整理



高等学校【市立太田高校】

①内容

引き続き、本の紹介（図書館だより、館内POPの展示）、ビブリオバトルの開催を中心とした活動を継続的に行っていきます。

②課題

ビブリオバトルは人気があるイベントですが、一方で参加するハードルが高いと感じている生徒もいるようです。気軽に参加できる読書イベントの工夫も求められます。

③今後の方向性

来館しなくても情報が得られるようにするなど、これまでの活動にICTを取り入れて、より利用を促進していきたいと考えます。

IV 関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

子どもを取り巻く環境の変化に対応し、子どもが読みたい本に出会い自ら読書活動を進めていけるような環境を整えていくためには、関係機関の連携・協力体制が不可欠です。市立図書館の豊富な資料を活用し、子どもの読書活動をより豊かで充実したものとしていくためにより一層の協力体制を進めていきます。

1 図書館と学校等との連携

図書館見学や職場体験の受け入れなど、事業への協力をとおして図書館の社会的役割について学んでもらうとともに連携を進め、図書館利用の促進と読書活動の充実を図ります。

団体貸出や相互貸借の活用についてなど積極的な情報発信に努め、読書活動や調べ学習の支援を行います。

2 図書館と他団体との連携

団体貸出や読書関連イベント等などの周知を図り、団体との連携強化に努めることで、子どもたちがより身近で読書に親しむことができる環境づくりを進めます。

様々な機関・施設と連携したイベントを実施し、読書に親しむきっかけづくりや関心を高める取組を行います。また、読書ボランティアの人材育成に努め、読書活動の支援体制の強化を図ります。

©太田市



太田市子ども読書活動推進計画(第2次)

発行2024年3月 太田市